

令和3年度 第6回美瑛町共有ビジョンまちづくりワークショップ 議事録

日時：令和3年7月20日（火）
午後6時から午後9時まで
場所：美瑛町役場4階委員会室

参加者

- ・町民8名 職員7名 計15名
- ・(有)イーズ 枝廣氏 他1名
- ・まちづくり推進課職員4名

1 開 会

2 あいさつ

3 ワークショップ

(1) 一言チェックイン

本ワークショップに対する意気込みを一人ひと言ずつ発表する。

(2) 熱海市の災害について（枝廣講師より）

- ・災害の近況報告や復旧に向けた市民との取り組みを紹介

(3) 有志チームの取り組みについて（事務局より）

- ・前回のワークショップで作成したビジョンの文言案をもとに、有志チームで最終案を作成した。
- ・有志チームは本ワークショップ参加者のうち、町民4名、職員4名で構成され、会議を2回開催した。
- ・有志チームで完成させたビジョン案は以下のとおり。

- すべての人が居場所と役割を持って、いつまでも笑顔で暮らせるまち
人と人がつながりあい、多様性を尊重し、すべての人々に居場所と活躍の場があり、ずっとここで輝けるまち
- 豊かな景観が、農業と観光の架け橋となるまち
世界に誇る「丘のまちびえい」を守り、地域資源が農業と観光の新たな価値を生み、あらゆる産業の相乗効果を高められるまち
- 誰もが自らの可能性を伸ばせるまち
自分たちの未来を信じ、新たなチャレンジを応援しあえるまち
- 子どもの個性を育み、多様な未来をつくるまち
地域全体で子どもの成長を温かく見守り、個性に応じたサポートができるまち
- 誰もが健康とともに支えあい、安心して住み続けられるまち
充実した保健・医療を受けることができる体制が確保され、みんなで声をかけあい、健やかに暮らせるまち
- 豊かな自然と共生し、エネルギーは自分たちでつくるまち
十勝岳連峰の裾野に広がる豊かな森林を守りながら、再生可能エネルギーを取り入れ、持続可能な循環型社会を目指すまち
- ライフラインが確保され、安定的な生活を続けられるまち
地球温暖化による災害や十勝岳噴火に備えたインフラ環境を維持するとともに、防災・減災についてみんなで考え行動するまち

(4) 本日のワークショップの説明（枝廣講師より）

有志チームで作成したビジョン案の確認作業をする。文言の大きな修正はせずに要点を絞って修正を検討する。

①「ヌケモレ」について

- ・言葉の抜け漏れがないかチェックすることが今回一番大事な作業となる。
- ・町民のどんな人が見ても自分のことを反映してくれていると感じられるような文章にする。
- ・この場にはいない人の「声」をきちんと反映できているか確認する。
- ・言葉の重複はあまり気にする必要はない。

②「らしさ」について

- ・他のまちにはない美瑛町らしさが文章に入っているかを確認する。

③「わかりやすさ」について

- ・多くの町民がわかりやすいと感じる言葉づかいに心がける。
- ・専門用語は極力使用しない。

④「伝わりやすさ」について

- ・ビジョン案をパブリックコメント等で町民に周知する方法を考える。

(5) グループワーク①

- ・4つのグループに分かれ、ビジョン案の修正点について議論する。

～ 休 憩 ～

(6) グループワーク②

- ・ビジョン案の1つの項目に対し1つのグループを作り、文章の修正案を作成する。
- ・1回目は3つのグループに分かれ修正案を作成し、2回目は4つのグループに分かれ修正案を作成する。
- ・グループごとに作成した修正案を発表する。
- ・全員で最終案を確認する。

(7) パブリックコメントについて（枝廣講師より）

- ・作成したビジョン案を見てもらい、多くの方に関わってもらう最後の機会となる。
- ・ワークショップの前半で実施した町民インタビューで意見をもらった人に伝えてほしい。
- ・身近な人にコメントを出してもらうことや、説明会を開催するなど、多くの人にコメントをもらえるよう工夫してほしい。
- ・作成のプロセスに多くの人に関わってもらうことが重要となる。

(8) グループワーク③

- ・パブリックコメントに多くの人からコメントをもらうためのアイデアを付箋に記入し、模造紙に貼り付ける。

(9) 一言チェックアウト

- ・本日の感想を一人一言発表する。

4 その他

- ・パブリックコメントは8月中旬を予定
- ・次回のワークショップは9月下旬を予定

5 閉会